

WAKAYAMA NORTH ROTARY CLUB



世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう

2024 年 2 月 26 日 第 1945 例会 VOL.46 No.27 通算 1949 号

2023-2024 年度
国際ローター会長 ゴードン R. マッキナリ
第 2640 地区ガバナー 谷 宗光

【例会日】 毎週 月曜日 12:30~13:30
【例会場】 和歌山市七番町 26-1 ダイワロイネットホテル和歌山 4F
【事務局】 和歌山市広瀬通丁 3-13-2 コスモ広瀬 1F (〒640-8113)
TEL 073-432-5260 / FAX 073-488-6665
HP(URL)http://www.wkitarc.sakura.ne.jp
E-mail : wnrcinfo@oak.ocn.ne.jp

2023-24 年度 和歌山北 RC のテーマ 会長 福田 玉緒 『頭寒胸熱』

会長：福田玉緒 姉妹クラブ
幹事：田村宣明 東済州 RC
会報委員長：中村博道 友好クラブ
水戸東 RC

2月ローターレート：1\$ = 147円

☆ 平和構築と紛争予防月間 ☆

----- プ ロ グ ラ ム -----

- ◇開会点鐘 12:30
- ◇Rソング「それこそローター」
🎹ピアノ演奏はなし、CDにて対応🎹
ソング委員会：岩見慎一君
- ◇ご来客紹介 親睦活動委員長：東山 充君
- ◇出席報告 出席委員長：田邊昌也君
- ◇会長・幹事・委員会・SAA 報告
- ◇外部卓話 「愛」
一般社団法人 イナンナ・イマジネーション
代表 石浦ゆかり様
- ◇閉会点鐘 13:30

----- 次回の例会 3月4日(月) ----- 第 1946 回例会

☆クラブフォーラム「45周年記念式典打合せ」
45周年記念実行委員会：重根康志委員長

----- 前回の例会報告 2月19日(月) ----- 第 1944 回例会

- 出席報告 (会員総数 30名 免除 3名)
- 出席会員：18名 出席率：67%
- 2月5日(月)Make Up 後の出席率：71%

----- ビジター報告 東山 充君 -----

合計 0 名

● 会長挨拶

福田玉緒さん



こんにちは。先日『産業廃棄物』の講習に行ってきました。今年度、国際ローター会長は『世界に希望を生み出そう』をテーマに掲げ、その中では『メンタルヘルス』をもちこんでおります。今回の産業廃棄物の研修の安全衛生管理の中でメンタルヘルス対策がありました。

職業生活に関して強い不安やストレスを感じている労働者や、業務による心理的負荷を原因として休業又は退職者が少なからずいるそうで、精神障害に関する労働保障の請求は増加しており、厚生労働省が『業務上疾病』と認定し、労働保険料を決定した支給決定件数は1年度あたり400件から600件台で推移しています。職場に存在するストレス要因は、労働者自身の力だけでは取り除くことができないものもあることから、事業者は、事業場におけるメンタルヘルス対策を積極的に推進する。とありました。対策としてストレスチェックと面接指導の実地等を義務付ける制度が平成27年12月1日に創設されています。ストレスチェック制度とは定期的に労働者のストレスの状況について検査を行い、本人にその結果を通知して自らのストレスの状況について気付きを促し、個人のメンタルヘルス不調のリスクを低減させるとともに、検査結果を集団ごとに集計、分析し、職場における要因を評価し、職場環境の改善いつなげることで、ストレスの要因そのものも低減させる制度です。『メンタルヘルス』、これも時代の流れの一つと感じました。

♥ ニコニコ箱 ♥

- ・福田玉緒さん 田村宣明君 岡田明久君
- ・ニコニコ箱募金。 榎谷知樹君
- ・第4回クラブ協議会を欠席してすみません。 青木保誠君
- ・ニコニコ箱募金。 森本芳宣君
- ・長期欠席すみませんでした。 山下茂男君
- ・卓話クラブフォーラム宜しく願います。 和田耕司君
- ・ニコニコ箱募金。 重根康志君
- ・山下さん、ご無沙汰です。 健康に気を付けて下さい！！ 東山 充君
- ・ニコニコ箱募金。 飯塚忠男君
- ・ニコニコ箱募金。 寺本尚弘君
- ・ニコニコ箱募金。 太田恵示君
- ・ニコニコ箱募金。 渡邊孝富君

😊ご協力頂きありがとうございます😊
🍷アルコール募金累計 ¥8,716🍷

四つのテスト (言行はこれに照らしてから)

I. 真実かどうか II. みんなに公平か

III. 好意と友情を深めるか IV. みんなのためになるかどうか

●クラブフォーラム●

「平和構築と紛争予防月間にちなんで」 国際奉仕委員会：和田耕司委員長



2月には平和構築と紛争予防月間と言う事で少しお話をしたいと思います。

ロータリーの友に平和は学び知ることからと書いてあります。世界各地で争いが絶えない中、ロータリーで何ができるでしょうか。日本にいな

ら、紛争地で生きる人と接し、交流することで、手を差し伸べる会員がいます。被爆地である広島会員は、未来を担う若者たちに平和と戦争について思いを巡らす機会を提供しています。

平和とは何か。今、私たちも、改めて平和を学び、知ることから始めませんか。

まずガザ地区とインターアクターの平和交流を経験された武田中学校高等学校の顧問の先生のお話です。

東日本大震災の際に、パレスチナ自治区ガザ地区の人たちが、被災者を励まそうと、たこを揚げてくれたことがありました。それをきっかけに始まった交流が、

縁あって当クラブにもつながり、ガザの中学生とのオンライン交流が始まりました。元々、武田中学校高等学校インターアクトクラブ (IAC) では、ガザでの教師経験を持つ顧問のアシュリー・サウザー先生 (アメリカ出身) が、以前より生徒たちにガザ地区の状況を話してきたことから、生徒たちの関心は高く、オンライン交流とはいえ、リアリティーのある体験となっています。

オンライン交流では、しばしば将来の夢の話になります。ガザの子どもたちは「医者になって地域の人々を助きたい」「学校の先生になって子どもの学力を高めたい」「エンジニアになりたい」など、明確な夢を語ります。対して日本の子どもたちは「自分たちは何でもできるのにやりたいことが分からない。ガザの子たちは夢があってすごい」と感想を述べます。そんな折の2023年10月6日、ガザに住む3人の中学生と直接交流できる機会に恵まれました。日本が国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) の支援70周年記念事業として、ガザの子どもたちが日本を訪れるツアーが催行されることになり、これまでガザの中学生と交流を持ってきた本校に声がかかったのです。

交流会の1時間目、本校グローバルスタディーコース (GSコース) の生徒による箏 (こと) の演奏に始まり、当クラブがこれまで行ってきたガザ地区との交流の歴史、GSコースが独自に行う平和学、広島学を紹介。2時間目は、ガザの子どもたちが柔道を体験。柔道部員から、柔道の精神、受け身の重要性、技のかけ方などの説明を受け、ガザの子たちは、生まれて初めて柔道着を着て、受け身や大外刈りに挑戦しました。ガザでは、体育で格闘技、ましてや女子が格闘技をすることは珍しいようで、熱心に、そしてうれしそうに取り組んでいました。

その後、美術部員のサポートの下、トートバッグに自分の好きなアニメのキャラクターをデザイン。ドラえもんやピカチュウなど日本のアニメキャラクターを選び、作業に打ち込んでいました。日本のアニメに興奮する様子に、子どもらしさを垣間見ることができました。そしてメインイベント「ガザの声を聞く」。

日々感じていることや、世界に向けてのメッセージを発表してもらいました。日々、命の危機にさらされていること、近い人々の死、電気が1日6時間し

か使えないこと、ガザ地区から自由に外出できないこと。特に「私たちが望んでいることは、皆さんが当たり前に持っている『人権』を与えられることです」という言葉は印象的でした。

そして口々に教育の重要性やありがたさ、教育こそが希望の光だと話していました。生まれた時から紛争下で常に厳しい状況に置かれながらも、希望を持って将来の目標を力強く語るガザの生徒たちは、インターアクターをはじめ、本校生徒に大切な学びを与えてくれました。くしくもこの交流があった翌日の10月7日、パレスチナを実効支配しているハマスがイスラエルに攻撃を仕掛ける形でパレスチナとイスラエルの大規模な紛争が勃発。生徒たちはもう他人事として考えられず、ただただ安否が気になり不安な数日を過ごしていました。

交流した三人が、隣国ヨルダンで無事であるという一報が入ると、生徒たちは安堵していました。しかし、三人のうちの1人の友人が空爆で亡くなったと聞いていたたまれない気持ちになり、戦争の理不尽さ、悲惨さに憤り、打ちひしがれることとなりました。数年前、ガザの小中学生と一緒にいったアートコンテストで現地の子もたちが描いた多数の絵画を、今回 UNRWA の方が直接届けてくれました。(国連パレスチナ難民救済事業機関) もはや、これらの絵を描いた子どもたちの消息は分かりません。当クラブも何かできないかと、より多くの人に考えるきっかけを持ってもらうため、広島平和記念資料館にて、これらの絵の展示会を計画しています。広島に生まれ、平和について学ぶ者として、これからもメッセージを発信していきます。またインターアクターの学生の1人は教育が当たり前ではない、ということに改めて実感した。普通に学校に行き部活をし家族のいる家に帰ってご飯を食べ、勉強し、お風呂に入って寝る。私たちに

にとって普通のことが、どれだけ幸せでどれだけありがたいことなのかを痛感した。同時に、ガザの子たちはどれだけ強いだろうとも思った。いつも恐怖と隣り合わせで生活し「私たちに教育は酸素で一つの希望」という言葉には心を打たれた。「勉強なんて面倒くさい」「やりたくない」なんて言ってる自分が恥ずかしくなった。この平和な日本と普通の日常に感謝して生きていこうと思った。と述べていました。次は宮崎アカデミーRC 会長のお話です。紛争による厳しい治安情勢が続くアフガニスタンへの復興支援として、日本では、2011年にアフガニスタンの「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」(通称 PEACE プロジェクト) が発足。母国の将来を担う若者への教育支援として、日本や国際協力機構の協力で、数多くのアフガニスタン人が日本で学んでいます。宮崎大学でも、このプロジェクトの留学生を約50人、受け入れています。21年、アフガニスタンでは前政権が崩壊した後に反政府勢力が政権を握り、それまで民主主義教育を受けていた人たちが窮地に追い込まれました。脅迫や迫害を受ける中、アフガニスタン出身の宮崎大学元留学生は大学に助けを求めました。それに

応え、大学教授らは自らの研究費などから捻出し、彼らを学業を続ける身として受け入れました。これを機に、宮崎大学の教授や職員、地元企業の経営者などの会員から成る宮崎アカデミーRC はじめ、県内のロータリーの会員が動き出し、当クラブの公共イメージ・奉仕プロジェクト委員会の勢井由美子会員と宮崎大学農学部長の隈元正行会員らを中心に「アフガニスタン人道支援活動」が始まりました。日本は、ウクライナ避難民への対応は行っているものの、他の国の扱いは流動的です。

か使えないこと、ガザ地区から自由に外出できないこと。特に「私たちが望んでいることは、皆さんが当たり前に持っている『人権』を与えられることです」という言葉は印象的でした。

そして口々に教育の重要性やありがたさ、教育こそが希望の光だと話していました。生まれた時から紛争下で常に厳しい状況に置かれながらも、希望を持って将来の目標を力強く語るガザの生徒たちは、インターアクターをはじめ、本校生徒に大切な学びを与えてくれました。くしくもこの交流があった翌日の10月7日、パレスチナを実効支配しているハマスがイスラエルに攻撃を仕掛ける形でパレスチナとイスラエルの大規模な紛争が勃発。生徒たちはもう他人事として考えられず、ただただ安否が気になり不安な数日を過ごしていました。

交流した三人が、隣国ヨルダンで無事であるという一報が入ると、生徒たちは安堵していました。しかし、三人のうちの1人の友人が空爆で亡くなったと聞いていたたまれない気持ちになり、戦争の理不尽さ、悲惨さに憤り、打ちひしがれることとなりました。数年前、ガザの小中学生と一緒にいったアートコンテストで現地の子もたちが描いた多数の絵画を、今回 UNRWA の方が直接届けてくれました。(国連パレスチナ難民救済事業機関) もはや、これらの絵を描いた子どもたちの消息は分かりません。当クラブも何かできないかと、より多くの人に考えるきっかけを持ってもらうため、広島平和記念資料館にて、これらの絵の展示会を計画しています。広島に生まれ、平和について学ぶ者として、これからもメッセージを発信していきます。またインターアクターの学生の1人は教育が当たり前ではない、ということに改めて実感した。普通に学校に行き部活をし家族のいる家に帰ってご飯を食べ、勉強し、お風呂に入って寝る。私たちに

にとって普通のことが、どれだけ幸せでどれだけありがたいことなのかを痛感した。同時に、ガザの子たちはどれだけ強いだろうとも思った。いつも恐怖と隣り合わせで生活し「私たちに教育は酸素で一つの希望」という言葉には心を打たれた。「勉強なんて面倒くさい」「やりたくない」なんて言ってる自分が恥ずかしくなった。この平和な日本と普通の日常に感謝して生きていこうと思った。と述べていました。次は宮崎アカデミーRC 会長のお話です。紛争による厳しい治安情勢が続くアフガニスタンへの復興支援として、日本では、2011年にアフガニスタンの「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」(通称 PEACE プロジェクト) が発足。母国の将来を担う若者への教育支援として、日本や国際協力機構の協力で、数多くのアフガニスタン人が日本で学んでいます。宮崎大学でも、このプロジェクトの留学生を約50人、受け入れています。21年、アフガニスタンでは前政権が崩壊した後に反政府勢力が政権を握り、それまで民主主義教育を受けていた人たちが窮地に追い込まれました。脅迫や迫害を受ける中、アフガニスタン出身の宮崎大学元留学生は大学に助けを求めました。それに

応え、大学教授らは自らの研究費などから捻出し、彼らを学業を続ける身として受け入れました。これを機に、宮崎大学の教授や職員、地元企業の経営者などの会員から成る宮崎アカデミーRC はじめ、県内のロータリーの会員が動き出し、当クラブの公共イメージ・奉仕プロジェクト委員会の勢井由美子会員と宮崎大学農学部長の隈元正行会員らを中心に「アフガニスタン人道支援活動」が始まりました。日本は、ウクライナ避難民への対応は行っているものの、他の国の扱いは流動的です。

か使えないこと、ガザ地区から自由に外出できないこと。特に「私たちが望んでいることは、皆さんが当たり前に持っている『人権』を与えられることです」という言葉は印象的でした。

そして口々に教育の重要性やありがたさ、教育こそが希望の光だと話していました。生まれた時から紛争下で常に厳しい状況に置かれながらも、希望を持って将来の目標を力強く語るガザの生徒たちは、インターアクターをはじめ、本校生徒に大切な学びを与えてくれました。くしくもこの交流があった翌日の10月7日、パレスチナを実効支配しているハマスがイスラエルに攻撃を仕掛ける形でパレスチナとイスラエルの大規模な紛争が勃発。生徒たちはもう他人事として考えられず、ただただ安否が気になり不安な数日を過ごしていました。

交流した三人が、隣国ヨルダンで無事であるという一報が入ると、生徒たちは安堵していました。しかし、三人のうちの1人の友人が空爆で亡くなったと聞いていたたまれない気持ちになり、戦争の理不尽さ、悲惨さに憤り、打ちひしがれることとなりました。数年前、ガザの小中学生と一緒にいったアートコンテストで現地の子もたちが描いた多数の絵画を、今回 UNRWA の方が直接届けてくれました。(国連パレスチナ難民救済事業機関) もはや、これらの絵を描いた子どもたちの消息は分かりません。当クラブも何かできないかと、より多くの人に考えるきっかけを持ってもらうため、広島平和記念資料館にて、これらの絵の展示会を計画しています。広島に生まれ、平和について学ぶ者として、これからもメッセージを発信していきます。またインターアクターの学生の1人は教育が当たり前ではない、ということに改めて実感した。普通に学校に行き部活をし家族のいる家に帰ってご飯を食べ、勉強し、お風呂に入って寝る。私たちに

アフガニスタンから逃れてきた人が日本に住める期間は1年。受け入れ先での具体的なサポートは民間団体やNGOが受け持ちますが、入国から1年間で日本語を習得し就職先が見つからなければ、彼らはアフガニスタンに帰されて命の危険にさらされることとなります。当クラブが行う主な活動は、人道支援に関する啓発を目的としたコロキウム（討論会）の開催と、逃れてきたアフガニスタンの人たちのための月1回の食料配布。コロキウムは22年に初めて開催し、文化交流や学生ボランティアの参加、マスコミ取材によるアフガニスタン難民の認知度向上など多くの副産物がありました。さらに、宮崎大学の学生ボランティアによる「にほんごでしゃべろう会」と当クラブの隈元会員が教える日本語教育、ボランティアや寄付金も募っています。22年11月には、元留学生全員の就職先が決まり、宮崎県の西都市と都城市に移住できることになりました。就職先のうち1社は、コロキウムに参加した人が経営する会社でした。特筆すべきは、通常アフガニスタンでは女性が働いてお金を稼ぐことができない社会です。しかし、家族として来日した女性が縫製工場のアルバイトとして報酬を得られ、「奇跡だ！」と喜ぶ姿に会員たちも感激しました。ここで平和フェローとは、平和構築と開発の担い手となる人材を育成するために、ロータリー財団から授与される奨学金（フェローシップ）で、毎年、世界で130人が選ばれます。この奨学金を授与された人をロータリー平和フェロー（以下、平和フェロー）と呼びます。応募には、この分野での活動経験が求められます。平和フェローは、世界各地の8つの大学に設置されている、7つの平和センターで学びます。デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校（アメリカ）、ブラッドフォード大学（イギリス）、クイーンズランド大学（オーストラリア）、ウプサラ大学（スウェーデン）、そして日本の国際基督教大学（ICU）で、平和と開発に関する修士号取得プログラムを、マケレレ大学（ウガンダ）とバチエシエヒシユ大学（トルコ）では、平和と開発に関する専門能力開発修了証プログラムを提供しています。これまでに1,700人以上の平和フェローがロータリー平和センターを卒業し、140カ国以上で活躍し、政府、NGO、教育、研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。東京三鷹市にあるICUの平和センターでは、紛争や開発に関する問題解決スキルの養成と、国際協力の実現、および国際協力の発展に向けた、積極的な取り組みを支援しています。特にアジアにおける平和構築の豊かな事例と、ICUが掲げる「信頼される地球市民の育成」教育を礎にしています。2年間の修士課程プログラムの中で、1年目に広島研修を実施。日本全国の会員からの協力金（会員一人当たり15円、合計130万円強）はこのプログラムに充てられています。現在ICUで学ぶ平和フェローは23人います。ここからはICU平和フェロー第21期生カルロス・マリオ・ナバレテさんのお話です。歴史の陰影の中で、人間はなぜ原爆のような壊滅的な手段を生み出すのでしょうか。それは恐怖や不信に根差したものなのか、それとも憎しみや利己主義、競争、上下関係、支配のない世界を思い描くことができないからなののでしょうか。今日、活気に満

ちた広島は、私が日本で訪れた中で最も好きな都市の一つです。訪れた人を包み込むような広島に、私は独特の平和観をもたらず厳粛な静けさを見いだします。何万人もの人々が一瞬にして消え去ったあの破壊的な瞬間の後も、生命力が絶えることはありませんでした。人間の回復力は輝きを放ち、破壊の残骸の中で新たな創造を生み出し、悪夢が再び訪れないように声を上げました。しかし、悲しいことに、人間の争いは、世界のあちこちで暴力となって今も芽生えています。私の祖国・コロンビアは、数十年にわたって内戦が続いています。この紛争では、半世紀を超える内戦が45万人以上の命を奪い、約10万人が行方不明となり、約900万人が国内避難民となり、数千人が誘拐され、約100万人が亡命を余儀なくされている、という痛ましい数字が報告されています。衝撃的なことに、これらの犠牲者の9割は非戦闘員の民間人であり、主に農村部に住む女性や子ども、そしてアフロ・コロンビア系や先住民族の血を引く人々とされているのです。なぜ人間は互いに敵対するのでしょか？なぜ人間は違いを受け入れようとしないのでしょうか？なぜ私たちは、生きる権利が階層化する現実をつくり出してしまおうのでしょうか？広島とそこに住む人々は、私たちに深く「なぜ」を掘り下げるよう、示唆します。破壊や暴力は恣意的に起こるものではなく、意思決定、行動、感情、文脈に起因しています。そのため、私たちはこのような悲劇を防ぎ、回避する力を持っています。このような変化を起こす力は私たちの手の届くところにあります。痛み、苦しみ、そして愛する力が私たちを一つにするということは、私たちの持つ人間性の奥深さを紡いでいます。私たちの行動の背後にある理由を理解することは、極めて重要です。私たちは破壊すると同時に創造し、殺すと同時に夢を見る人間という生き物です。私たちが人間同士の対立という根強い現実に取り組んでいる時、広島遺産は、私たちがどのような未来にコミットしようとしているのか痛切に想起させてくれます。人類の傷ついた心を修復することはできるのでしょうか？私は今も考え続けています。みなさんも考えて下さい。

● 幹事報告

田村宣明君



◀ 回覧 ▶

- ・2/5(月)開催「第8回定例理事役員会」議事録
- ・2024-2025年度R手帳注文書
- ・米山記念奨学会より会報「ハイライトよねやま287号」

◀ 報告 ▶

- ・本日、2024-2025年度版R手帳の発注書を回覧しています。発注期限が2/22(木)迄と短い為、お早めにご注文頂きたくお願い致します。

◀ その他 ▶

- ・次回の例会は、2/26(月) 12:30~13:30 (株)和田物流 会議室 外部卓話「愛」 一般社団法人 イナンナ・イマジネーション 代表 石浦ゆかり様

◆2・3月度例会プログラム予定表◆

- 2月19日(月) (株)和田物流会議室 12:30~13:30
 クラブフォーラム
 「平和構築と紛争予防月間にちなんで」
 国際奉仕委員会：和田耕司委員長
- 2月26日(月) (株)和田物流会議室 12:30~13:30
 外部卓話 「愛」
 一般社団法人 イナンナ・イマジネーション
 代表 石浦ゆかり様
- 3月 4日(月)(株)和田物流会議室 12:30~13:30
 クラブフォーラム
 「45周年記念式典打合せ」
 45周年実行委員会：重根康志委員長
 *例会終了後 13:40~
 「第9回定例理事役員会」開催
- 3月11日(月)(株)和田物流会議室 12:30~13:30
 クラブフォーラム
 「水と衛生月間にちなんで」
 環境保全委員会：重根康志委員長
 *3月お誕生日お祝い
 福田会員・藤川会員・田上会員
- 3月18日(月) (株)和田物流会議室 12:30~13:30
 クラブフォーラム
 「第2回I.D.M.発表」発表：各班リーダー
 担当：R情報・規定委員会
 *米山奨学生：林さん来訪
 奨学金授与・花束贈呈

3月25日(月)休会③

◆市内・地区行事◆

◀市内▶

- 2月23日(金祝)和歌山東 RC
 「創立65周年記念式典」
 ホテルグランヴィア和歌山6F ルグラン
 登録受付：16:30~17:00
 記念式典：17:00~17:50
 祝 宴：18:00~20:00
 出 席：福田会長・田村幹事
- 3月 7日(木) 和歌山市内9RC 会長・幹事会
 ※休 会
- 3月17日(日) 2023-2024年度和歌山市内9RCI.M.
 «インターシティーミーティング»
 登録受付：12:30~13:00
 開催時間：13:00~16:30
 *パネルディスカッション
 登壇者：榎谷社会奉仕委員長
 開催場所：アバローム紀の国
 出 席 者：福田会長・田村幹事
 榎谷社会奉仕委員長
 明楽会員・太田会員
 重根会員・中村会員
 山下会員 計8名

◀地区▶

- 3月10日(日)2024-2025年度のためのPETS
 (会長エレクトセミナー)
 開催場所：アバローム紀の国
 受付開始：10:30~
 セミナー：11:00~17:00
 出 席 者：田邊昌也次期会長

◆市内他クラブ例会情報：メイクアップをして出席率の向上と親睦の輪を広げよう！！◆

- 和歌山アゼリア RC : 2月26日(月) アバローム紀国 12:30~
 「第3回クラブ協議会~委員会中間活動報告及び、進捗状況の発表~」
- 和歌山 RC : 2月27日(火) ホテルグランヴィア和歌山6F 12:30~
 外部卓話 うつほの杜学園 代表理事 仙石恭子様
- 和歌山東南 RC : 2月28日(水) ホテルアバローム紀の国 12:30~
 卓話「平和構築と紛争予防月間~未来を創る交際奉仕~」
 RI第2640地区 国際奉仕委員長 古谷典子様
- 和歌山西 RC : 2月28日(水) サンプレストビル2F会議室 12:30~
 カフェ例会
- 和歌山東 RC : 2月29日(木) 休会 *サイン受付はございません
- 和歌山城南 RC : 2月29日(木) ホテルアバローム紀の国 18:30~
 リラックス例会*アルコールがでます
- 和歌山南 RC : 3月 1日(金) 和歌山城ホール4F大会議室 12:30~
- 和歌山中 RC : 3月 1日(金) 和歌山城ホール4F会議室5 19:00~
 クラブフォーラム「I.M.(3/17)準備・打合せ」

*ダイワロイネットホテル和歌山改装期間中の例会場変更(下記4RC様)によるサイン受付はございません
 和歌山 RC 様・和歌山東 RC 様・和歌山南 RC 様・和歌山中 RC 様